

2011年3月期第2四半期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ



本資料は、株式会社マネーパートナーズグループの事業及び業界動向についての株式会社マネーパートナーズグループによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

株式会社マネーパートナーズグループは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2010年11月15日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社マネーパートナーズグループにより2010年11月15日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。



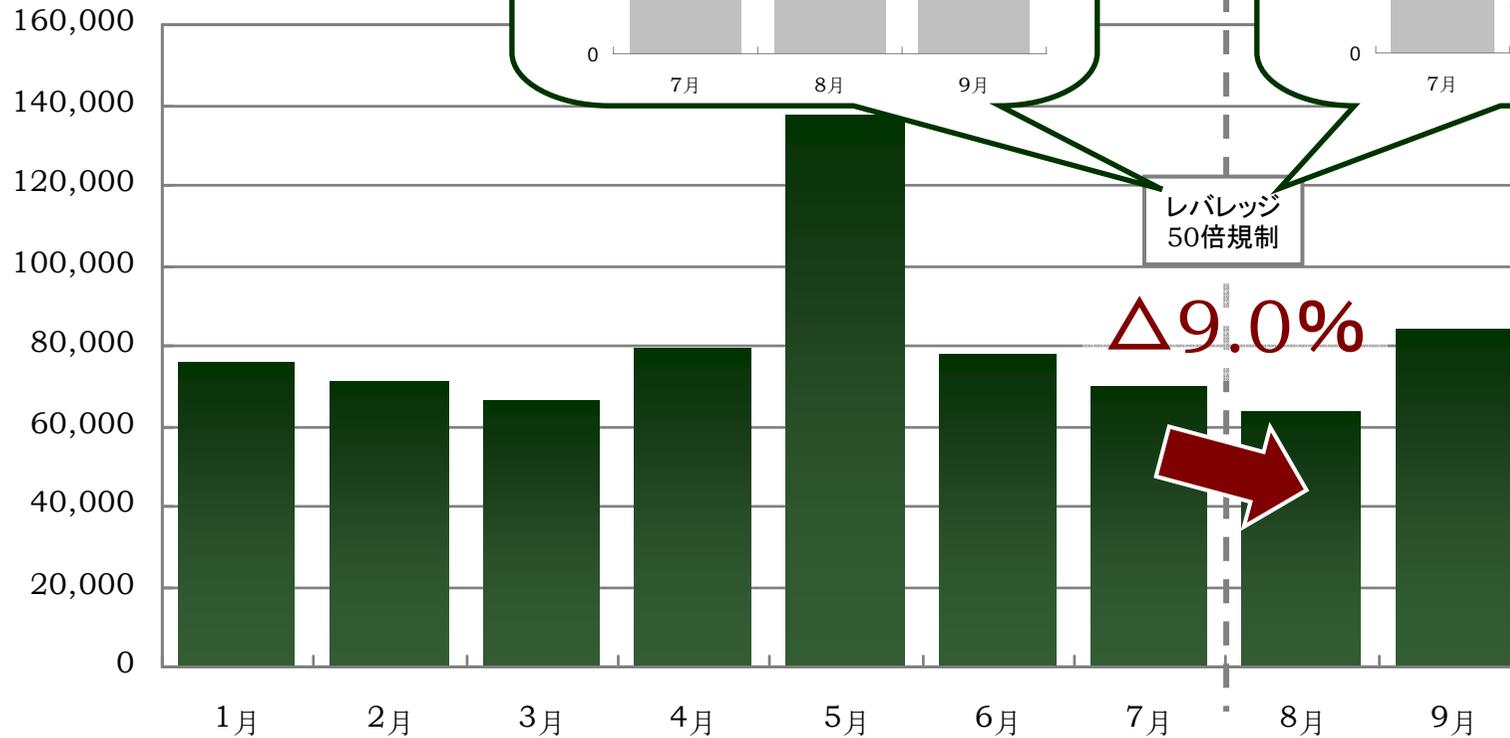
証拠金規制による影響

Money Partners Group

■ 証拠金規制(レバレッジ規制)の影響

当社グループおよび取引所取引、全OTC取引の月次取引高推移

 Money Partners
(百万通貨単位)



当社グループの取引高は、取引所取引および店頭取引全体と比較してもマイナス影響は軽微

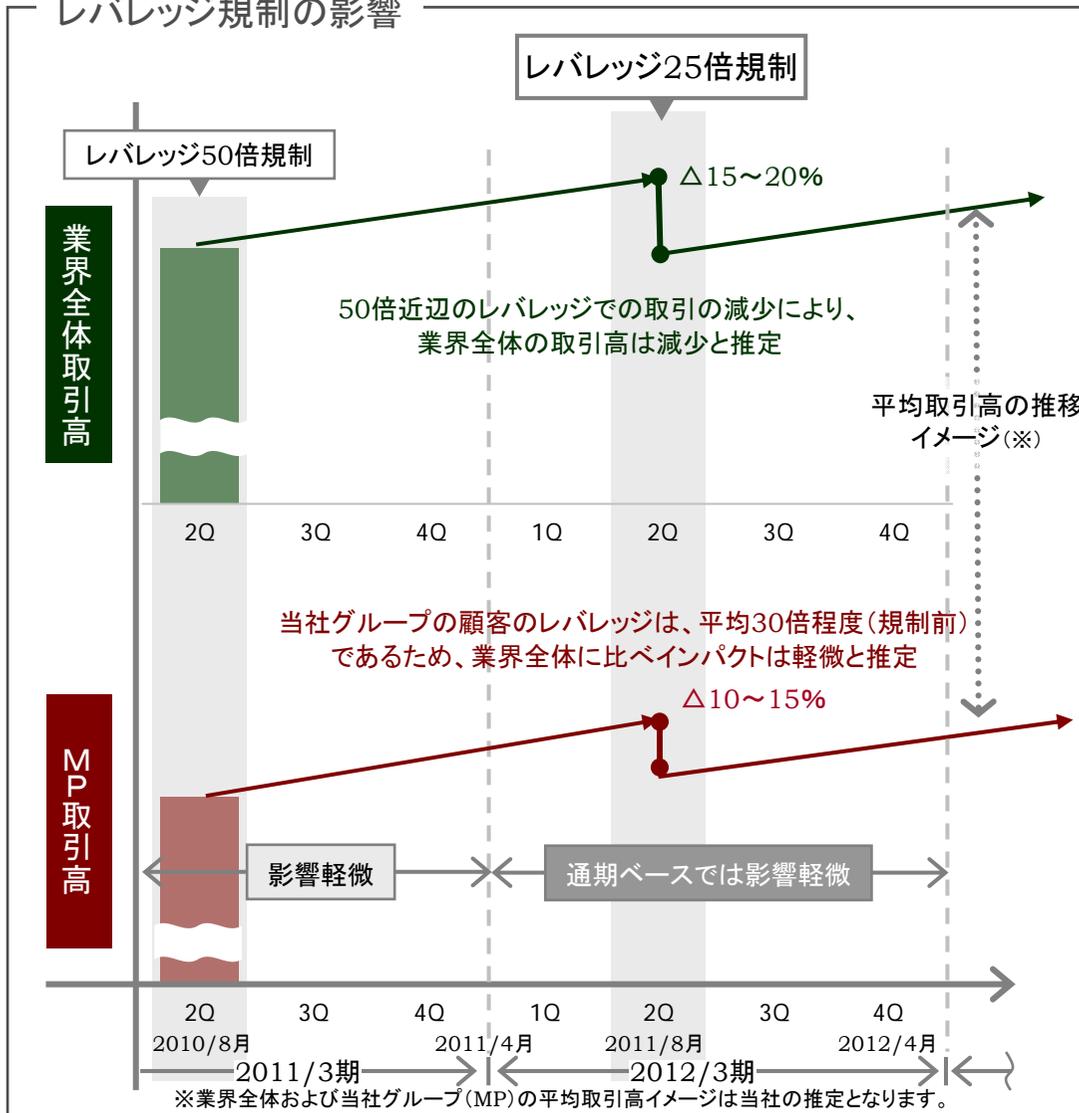


Money Partners Group

証拠金規制による影響とFX業界の展望

■ より一層の整備が図られるFXマーケット

レバレッジ規制の影響



~今後の見通し~

レバレッジ規制

&

ロスカットガイドライン制定

&

広告規制の強化

透明化・健全化の
更なる進展

+

税制改正に関する
要望検討

金融庁の平成23年税制改正要望に
「店頭デリバティブ取引等の申告分離課税化」
が盛り込まれる

金融商品としての
メリット増の可能性

I .2011年3月期第2四半期の決算及び事業の概況

II .2011年3月期第2四半期の取組み

III .今後の戦略及び重点課題

IV .当社の経営目標及び株主還元について

参考資料

I .2011年3月期第2四半期の決算及び事業の概況





2011年3月期第2四半期 連結決算の総括とポイント

- ① 口座数は14.8万口座(10月には15万口座突破)。円高の進行による顧客ポジションの増加もあり預り証拠金は332億円まで増加。

総口座数	148,898口座	2011/3期1Q比	5.9%増
預り証拠金	33,237百万円	2011/3期1Q比	3.8%増

- ② 外国為替取引高はボラティリティの低迷やレバ規制により26.2%減少。

2010/7-9月取引高 約2,178億通貨単位 2010/4-6月比 26.2%減

- ③ 第2四半期(2010/7-9)の営業収益は2,105百万円、経常利益は107百万円(前四半期比84.4%減)となった。

- ✓ 取引高はレバレッジ規制の影響やボラティリティの低迷等により、前四半期比26.2%減となった
- ✓ 営業収益は、スプレッド縮小に伴う取引高当り収益性の低下や大ロット超短期取引の増加等の要因により、前四半期比870百万円減となった
- ✓ 前四半期と比べ固定費はほぼ横ばいで推移したものの、支払手数料の減少等により販管費は12.9%減となった
- ✓ 営業収益の減少に伴い、経常利益では前四半期比585百万円減となった

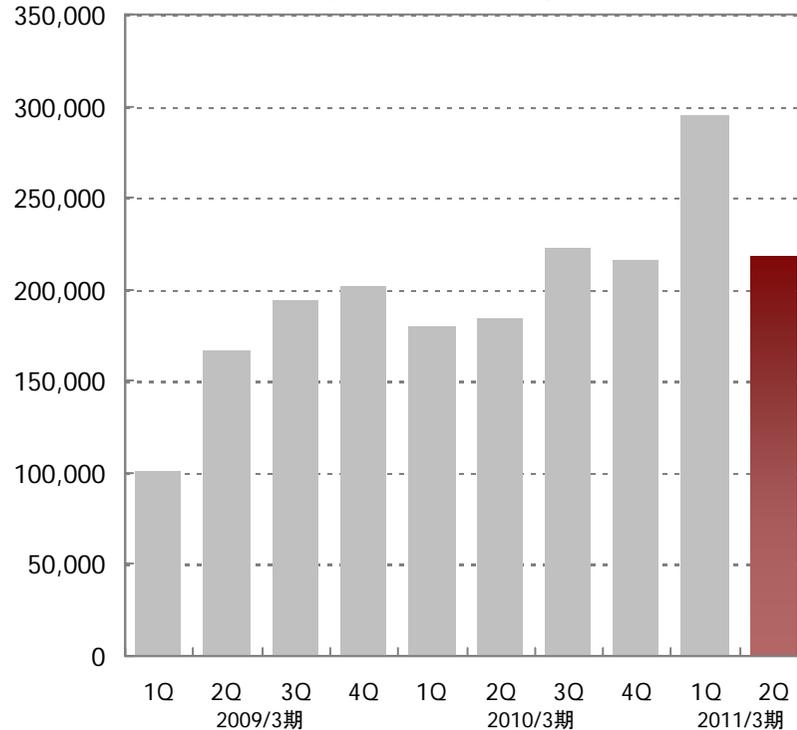


取引高と営業収益

Money Partners Group

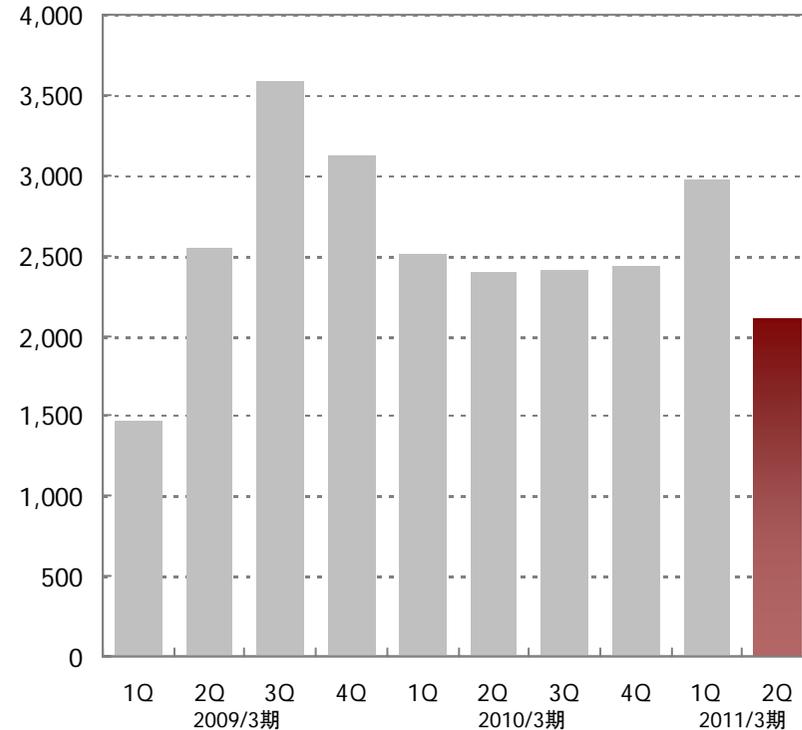
(百万通貨単位)

外国為替取引高



(百万円)

営業収益



(単位＝外国為替取引高:百万通貨単位、営業収益:百万円)

	09/3期 1Q	09/3期 2Q	09/3期 3Q	09/3期 4Q	10/3期 1Q	10/3期 2Q	10/3期 3Q	10/4期 4Q	11/3期 1Q	11/3期 2Q
外国為替取引高	100,897	167,047	193,834	202,379	179,617	184,039	223,243	213,366	295,234	217,810
営業収益	1,471	2,546	3,586	3,167	2,509	2,394	2,404	2,430	2,976	2,105

- 取引高は、為替介入による一時的な高まりはあったものの、主要な取扱い通貨ペアの変動率は総じて低い水準となったことに加え、2010年8月に施行されたレバレッジ規制の影響等から、前四半期比26.2%減少の2,178億通貨単位となった。
- 営業収益は、好調だった前四半期の反動で取引高が減少したことに加え、スプレッド縮小やドル/円の取引量の増加に伴う取引高当りの収益性低下や 大ロット超短期取引の増加等により前四半期比870百万円となる2,105百万円となった。



市場環境と事業の動向

Money Partners Group

収益変動要因

当四半期の状況

営業収益

マーケット要因(コントロール不可)



ボラティリティ/値幅の低下

✓ 取引機会の減少

レバレッジ50倍規制スタート

✓ 投資マインドの低下
✓ 高レバレッジ取引の減少

当社要因(コントロール可能)

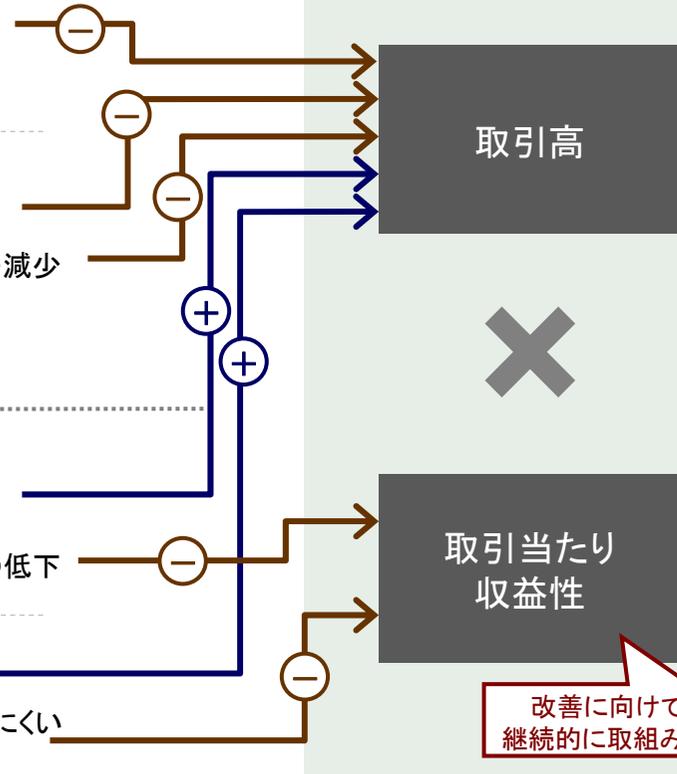


競争力向上のためのスプレッド縮小

✓ 顧客取引の活性化(顧客の拡大)
✓ 取引当たりレシオの低下

大ロット超短期取引顧客の流入

✓ 取引高の急増
✓ CPが一括カバーしにくい取引の発生



改善に向けて継続的に取組み中

取引高の減少に加え、取引当たり収益性の低下により、営業収益は前四半期比で減少となった

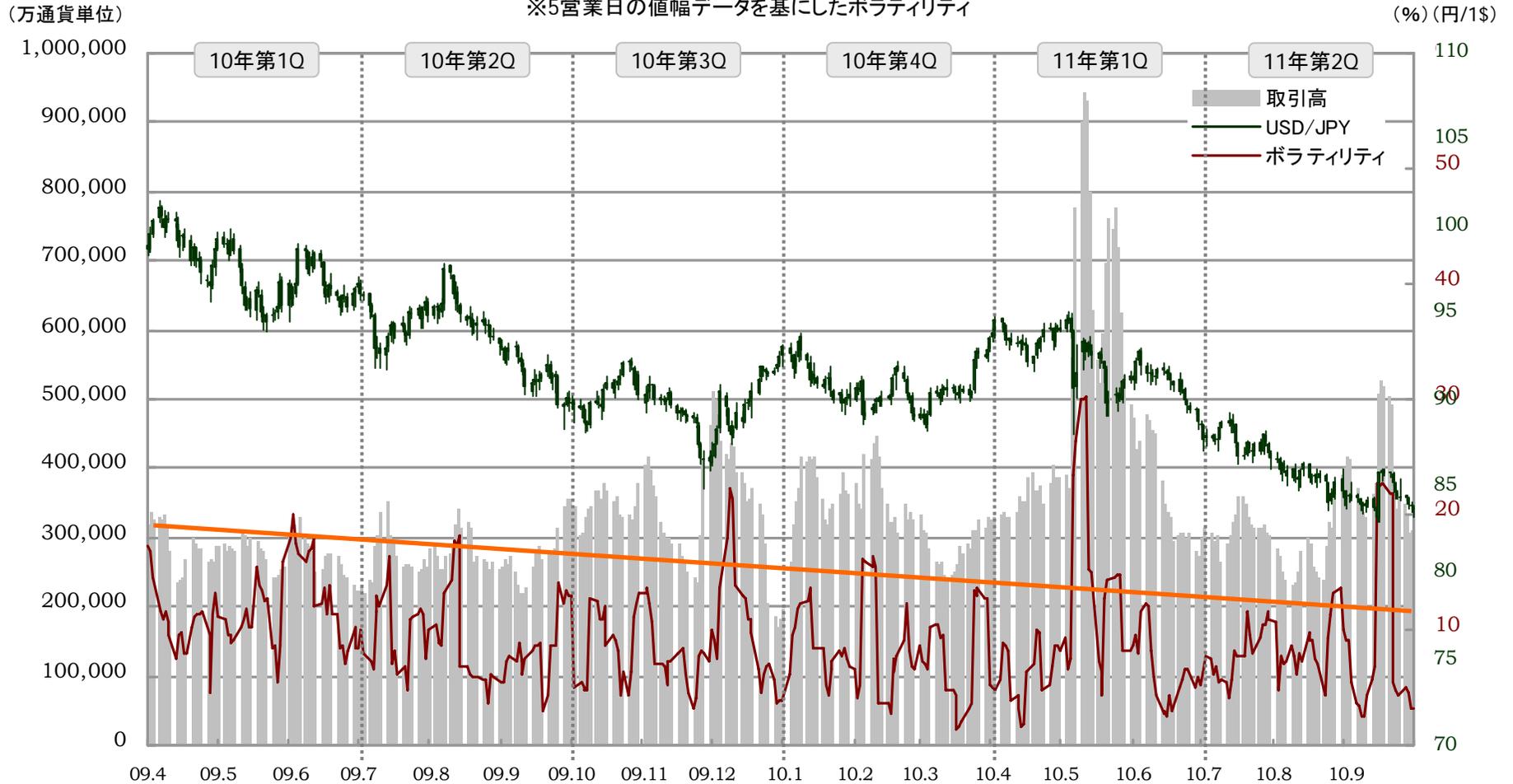


市場環境と事業の動向

Money Partners Group

【取引高・米ドル/円5営業日ボラティリティ・米ドル/円レート日足データの推移】

※5営業日の値幅データを基にしたボラティリティ

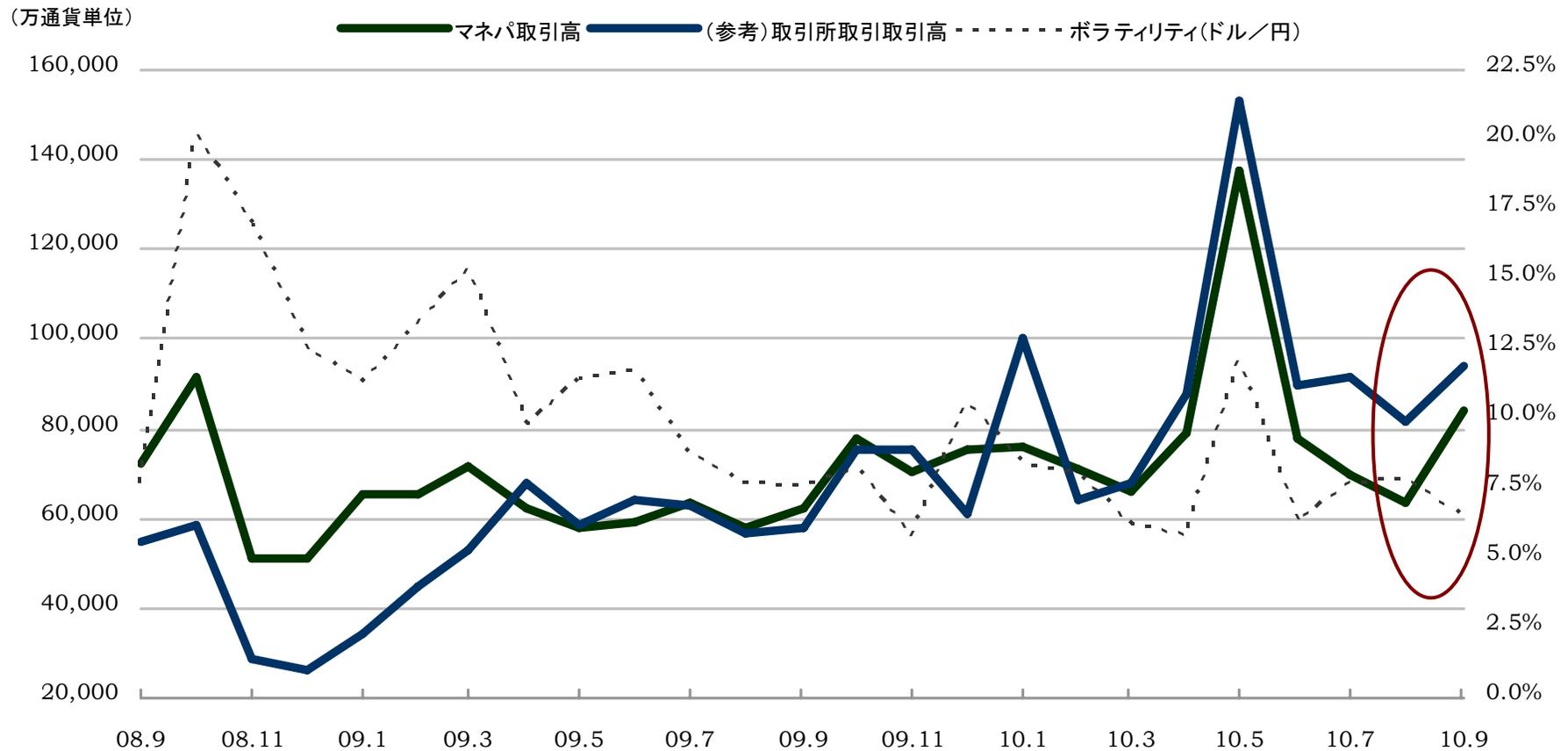


当四半期のボラティリティは、為替介入により一時的に高まる場面もあったが、期間を通じては総じて低い水準での推移となり、前四半期平均を下回る水準となった。



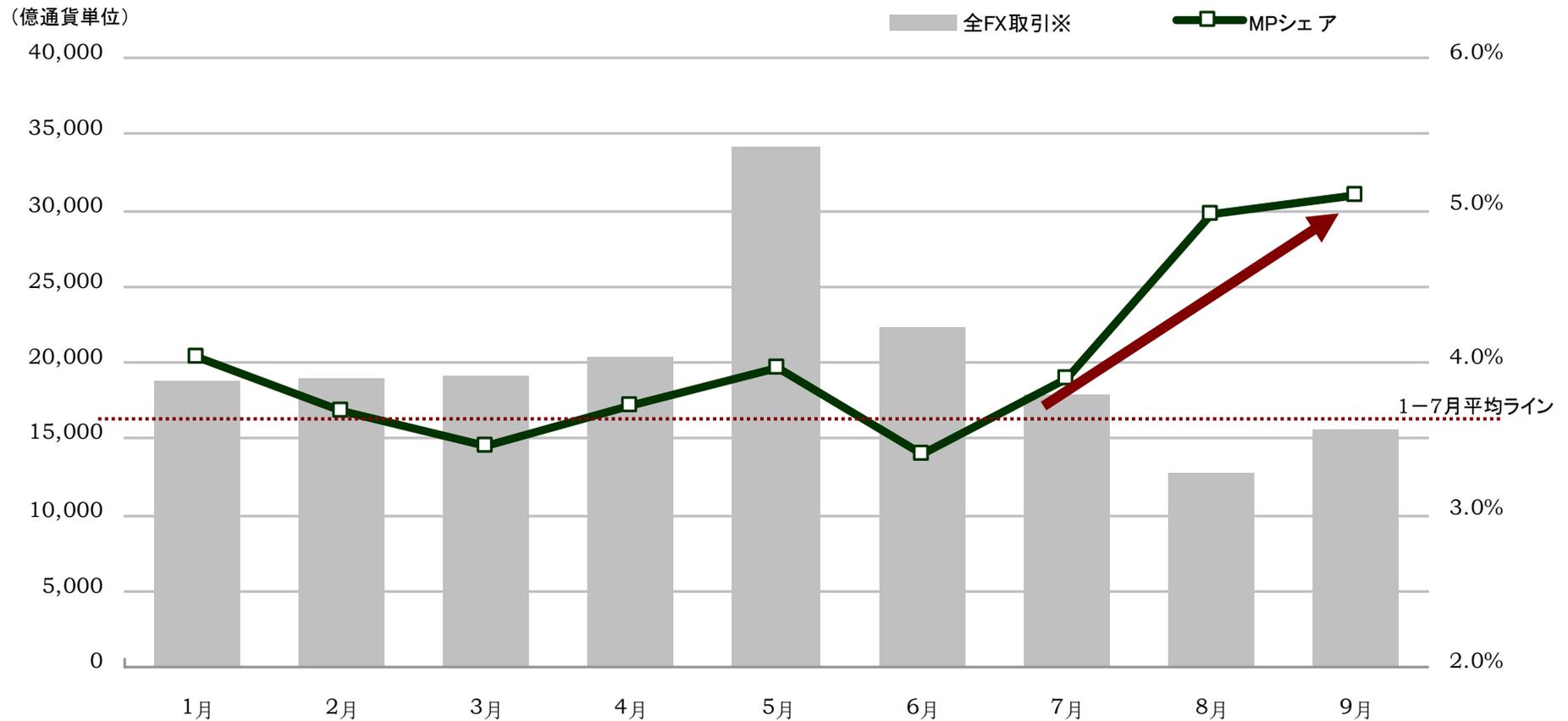
【取引高・米ドル/円日次平均ボラティリティの推移】

※日次ボラティリティを営業日ベースで加重平均した値



8、9月は低ボラティリティであったにもかかわらず取引高は比較的堅調に推移。
特に9月はスプレッド縮小策や各種キャンペーンが奏功し、取引高は今年2番目を記録。

【全FX取引高と当社取引高シェアの推移】



※ 店頭取引(金融先物取引業協会発表) + 取引所取引(各取引所公表)

取引高拡大施策の効果が表れつつあり、FX市場における取引高シェアは上昇中。



四半期業績推移

Money Partners Group

◆四半期業績推移

単位:百万円

	2009/3期		2010/3期				2011/3期		前四半期 対比増減
	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	
営業収益	3,586	3,167	2,509	2,394	2,404	2,430	2,976	2,105	△29.3%
受入手数料	1	0	0	0	0	0	0	0	40.0%
トレーディング損益	3,570	3,096	2,480	2,382	2,381	2,417	2,955	2,077	△29.7%
金融収益	12	7	3	5	4	5	6	5	△8.8%
その他の売上高	2	63	24	5	18	7	13	21	63.1%
金融費用	0	0	0	0	0	2	2	2	12.6%
売上原価	-	39	17	3	10	5	8	14	62.3%
純営業収益	3,585	3,126	2,490	2,390	2,392	2,423	2,964	2,088	△29.6%
販売費・一般管理費	1,924	1,926	1,856	1,912	2,095	2,084	2,265	1,972	△12.9%
営業利益	1,661	1,200	634	477	297	339	698	115	△83.5%
経常利益	1,659	1,197	636	476	295	336	693	107	△84.4%
税金等調整前四半期純利益	1,659	1,195	636	476	295	336	671	107	△83.9%
四半期純利益	1,024	826	403	334	213	195	394	59	△84.8%
営業収益経常利益率	46.3%	37.8%	25.4%	19.9%	12.3%	13.8%	23.3%	5.1%	

1. 当四半期は取引高の減少や取引高あたり収益性の低下等により、営業収益は前四半期比29.3%減となった。
2. 販売費・一般管理費等は、変動費が大きく減少し、前四半期比12.9%減となった。



四半期販管費推移

Money Partners Group

◆販管費内訳の推移

単位: 百万円

	2009/3期		2010/3期				2011/3期		前四半期 対比増減
	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	
取引関係費	1,083	1,092	976	1,057	1,247	1,220	1,369	1,079	△21.2%
人件費	263	255	225	244	245	239	244	240	△1.5%
不動産関係費	261	275	276	268	256	266	260	260	0.2%
事務費	190	171	202	203	210	221	230	238	3.4%
減価償却費	96	100	102	109	112	119	116	123	5.6%
租税公課	7	13	7	15	11	1	14	13	△9.5%
貸倒引当金繰入れ	0	△2	0	0	△0	0	0	0	△100%
その他	21	19	35	12	11	13	28	16	△41.9%
販売費・一般管理費合計	1,924	1,926	1,856	1,912	2,095	2,084	2,265	1,972	△12.9%

(主要な費目)

広告宣伝費(※1)	438	292	309	316	347	344	216	237	9.8%
システム関連費用(※2)	334	337	368	369	366	387	405	422	4.4%

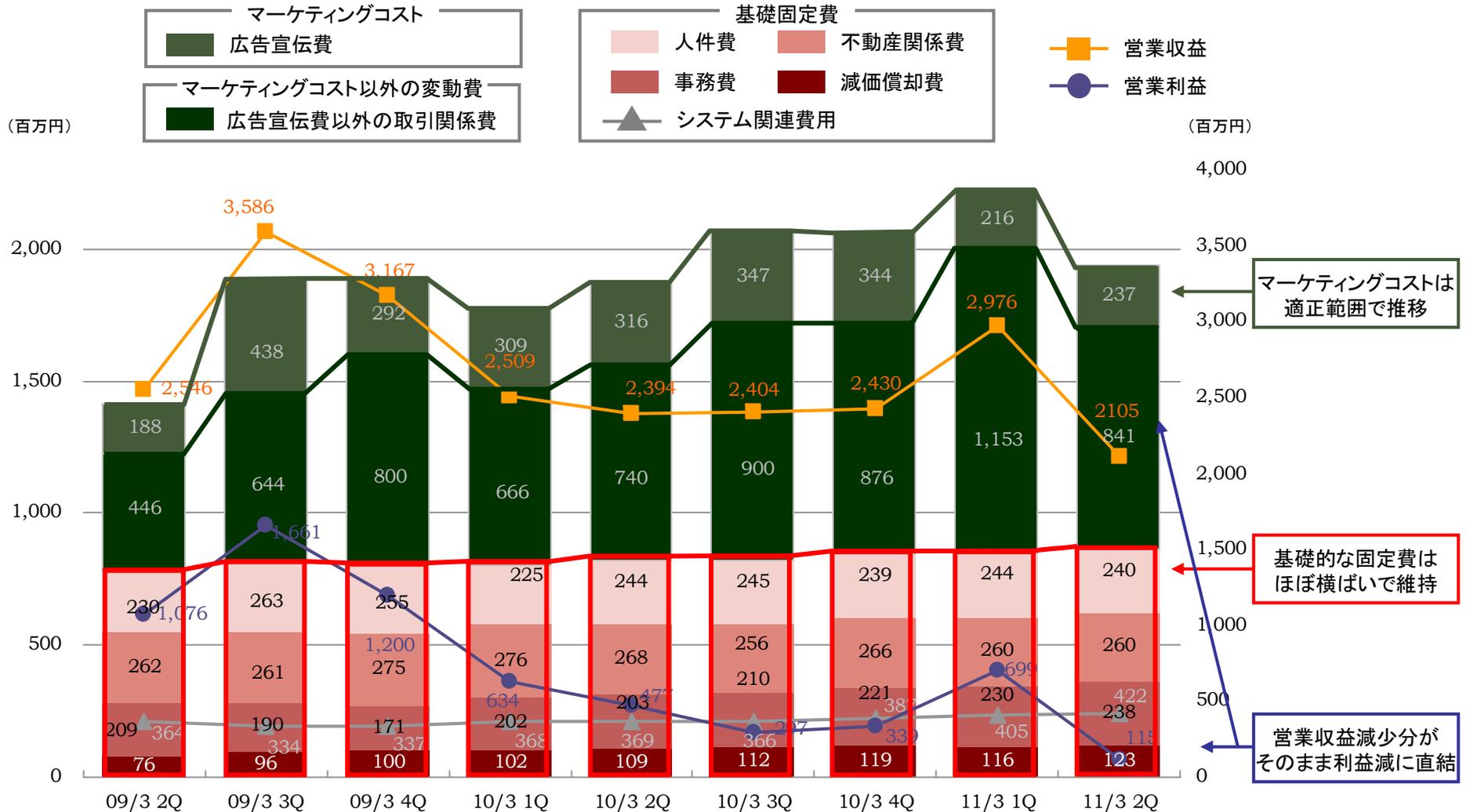
※1 取引関係費の一部となります。 ※2 旧経理基準における電算機費に相当します。取引関係費、不動産関係費、事務費の一部となります。

1. 広告宣伝費は前四半期比9.8%増加したものの、取引高に連動するホワイトラベル提供の関係費用等の変動費が減少し、取引関係費は前四半期比で290百万円の減少となった
2. 広告宣伝費はアフィリエイトやキャンペーン費用等の増加により、前四半期比21百万円の増加となった
3. システム関係費用(旧電算機費)はデータセンター移設費用等もあり、17百万円の増加となった



四半期固定費および変動費推移(ご参考)

◆主要な固定費・変動費の推移



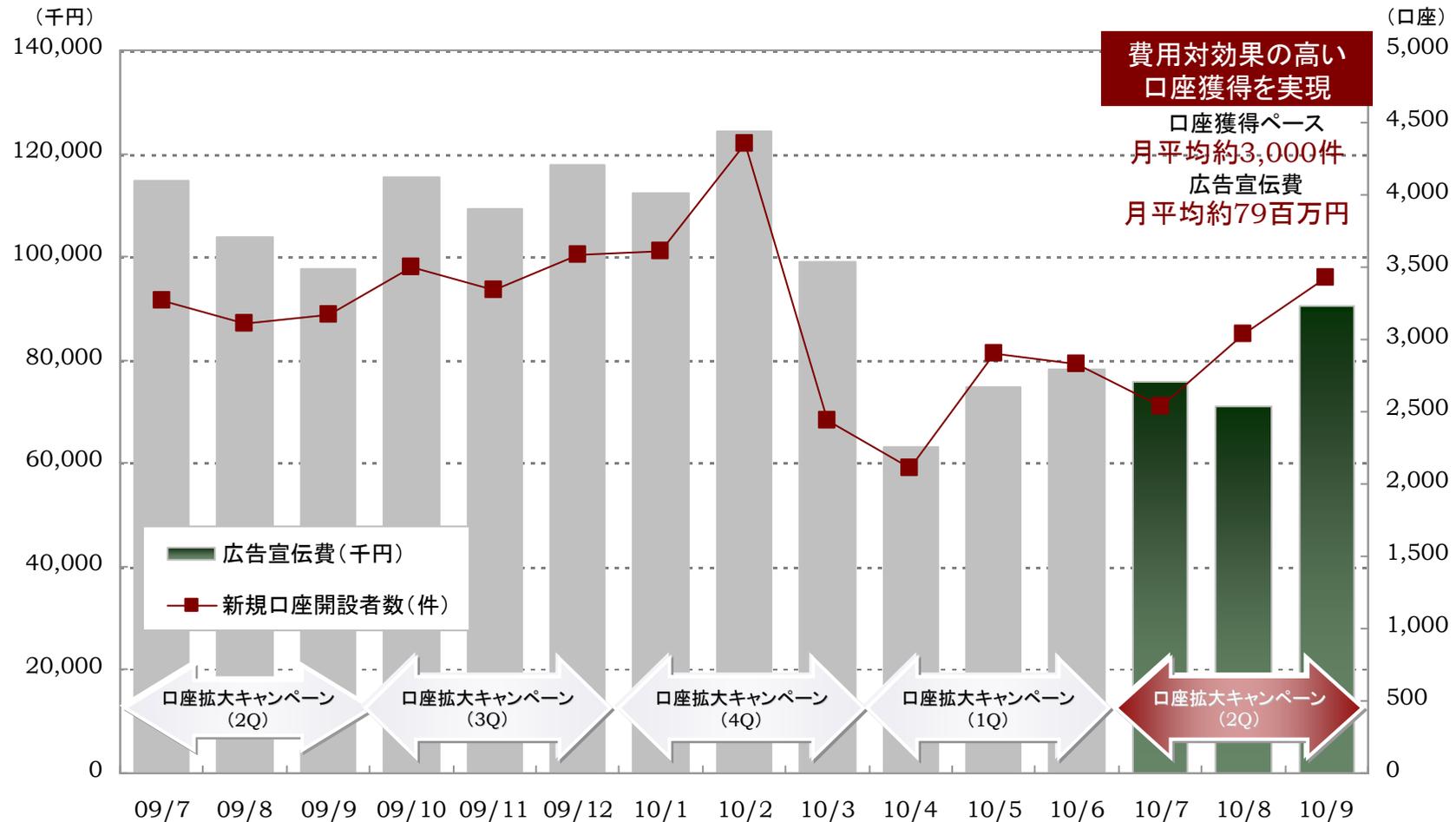
取引高の減少に伴い、ホワイトラベル先への支払手数料も減少となった結果、マーケティングコストを除く変動費の占める割合は小さくなった。



Money Partners Group

月次広告宣伝費の推移(ご参考)

◆ 広告宣伝費及び新規口座開設者数の推移



口座獲得は月間平均3,000件(2011年3月期2Q)と安定的に推移。
(新規口座数が増加したことにより、顧客稼働率に好影響)



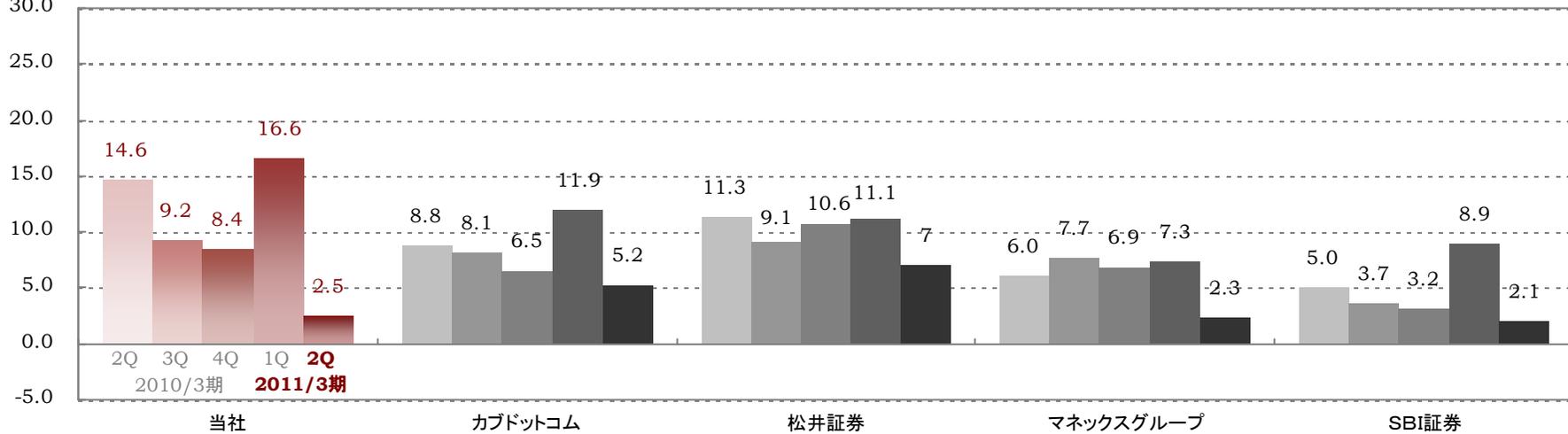
主要経営指標推移

Money Partners Group

◆主要ネット証券とのROE及び営業収益経常利益率比較

(%)

【主要ネット証券四半期ROE比較】



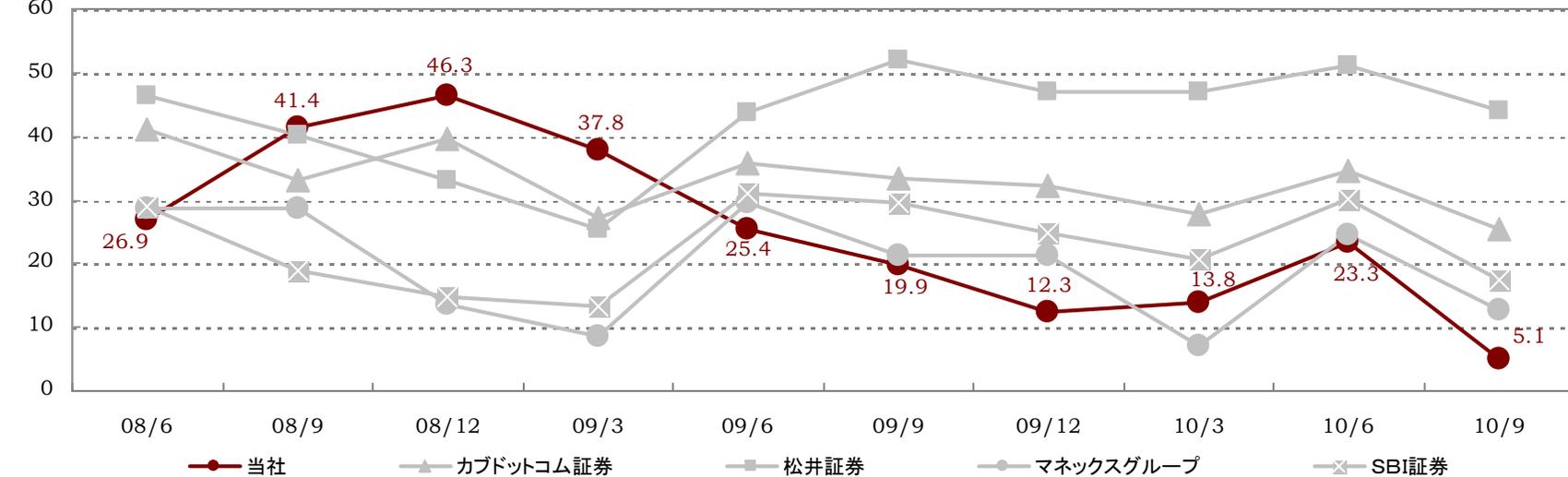
※: 四半期ROEにつきましては、下記計算式により年換算して算出しております。

$$ROE(年換算) = (四半期純利益 \times 4) \div ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$$

なお、他社データにつきましては、各社IR資料より当社が作成しております。

(%)

【主要ネット証券四半期営業収益経常利益率比較】





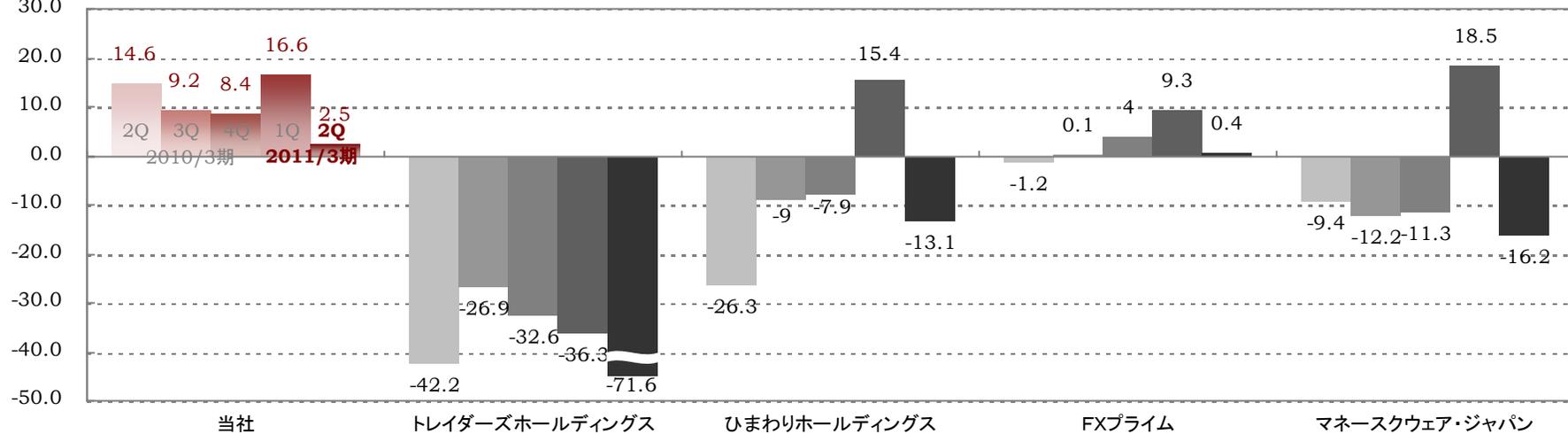
主要経営指標推移

Money Partners Group

◆上場FX会社とのROE及び営業収益経常利益率比較

(%)

【上場FX会社四半期ROE比較】



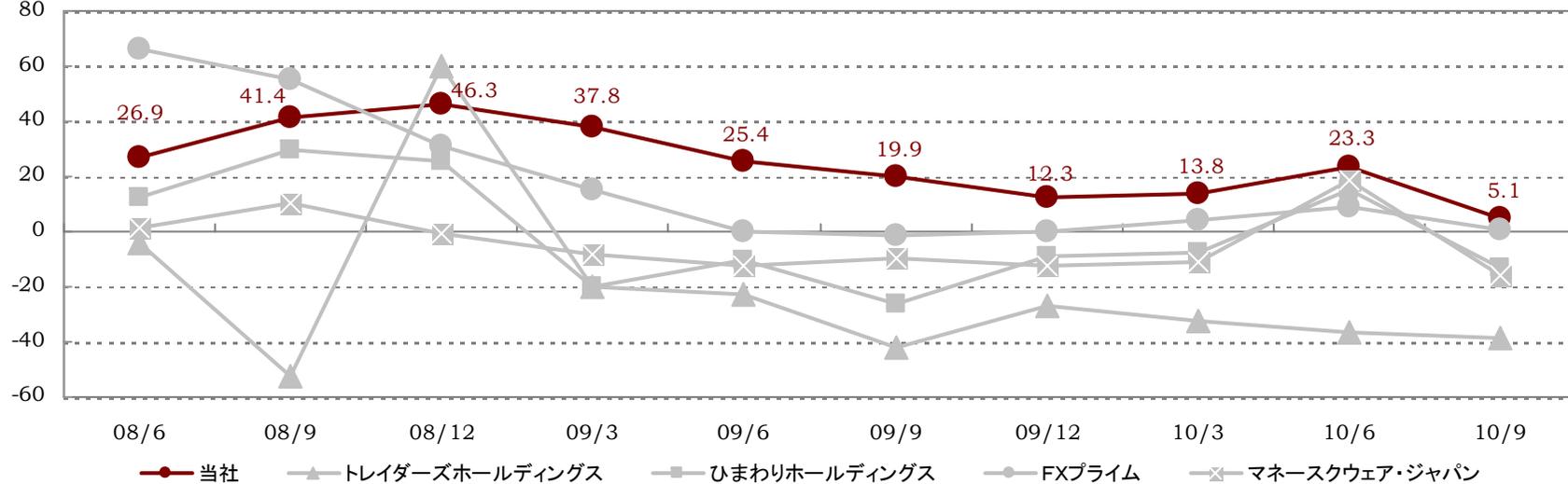
※：四半期ROEにつきましては、下記計算式により年換算して算出しております。

ROE(年換算) = (四半期純利益 × 4) ÷ ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) ÷ 2) × 100

なお、他社データにつきましては、各社IR資料より当社が作成しております。

(%)

【上場FX会社四半期営業収益経常利益率比較】





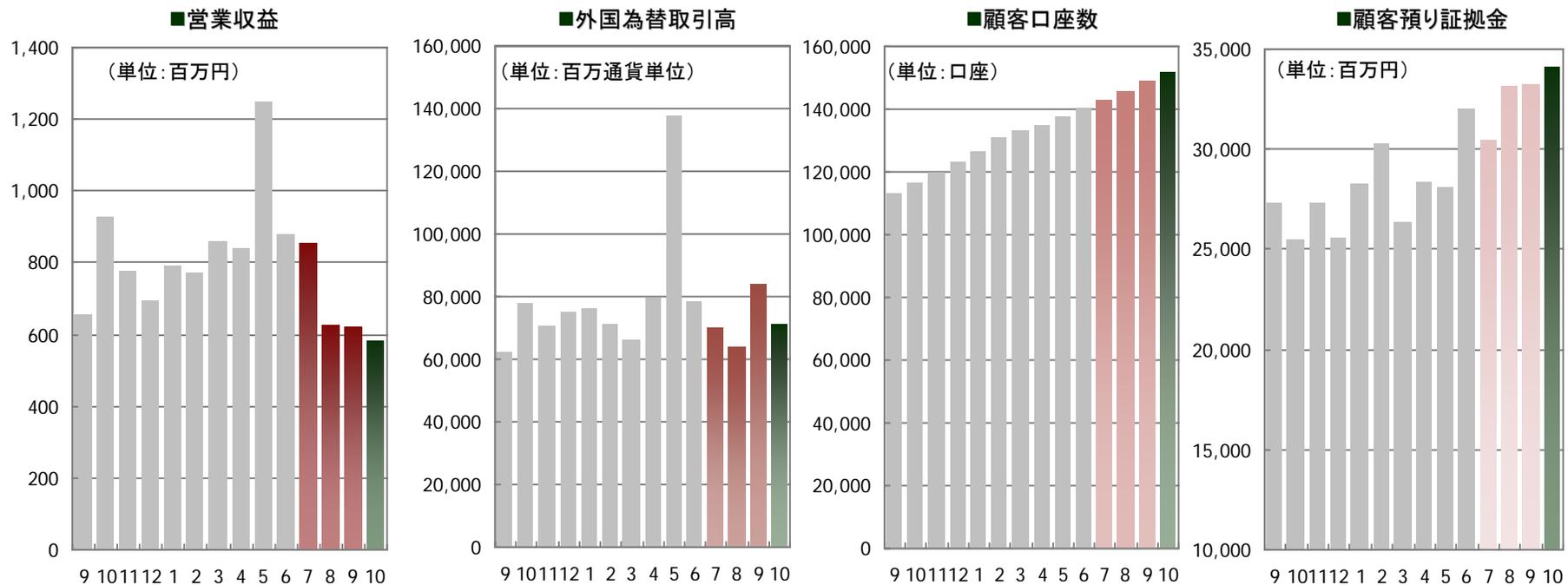
月次業績指標推移

Money Partners Group

◆月次営業収益、取引高、顧客口座数、顧客預り証拠金の推移

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
営業収益(百万円)	656	928	777	697	794	775	860	843	1,249	882	855	627	622	584
取引高(百万通貨単位)	62,076	77,652	70,481	75,109	75,878	71,294	66,193	79,232	137,860	78,141	69,980	63,673	84,155	71,247
顧客口座数(口座)	113,275	116,632	119,881	123,278	126,746	130,930	133,213	135,141	137,924	140,592	142,846	145,622	148,898	151,789
顧客預り証拠金(百万円)	27,295	25,444	27,331	25,557	28,234	30,319	26,375	28,316	28,099	32,030	30,419	33,160	33,237	34,136

※営業収益、取引高は、ホワイトラベル提供及び大証FXマーケットメイク業務に伴い発生した収益・取引を含んでおります。
顧客預り証拠金は、ホワイトラベル提供に伴う預り証拠金を含んでおります。



顧客口座数は、FXへの注目の高まりに加え、顧客基盤拡大策の実施や商品性・サービスの向上等により、順調に拡大中。顧客預り証拠金も堅調に推移。

Ⅱ.2011年3月期第2四半期の取組み





2011年3月期第2四半期の主な取組み

証拠金規制対応について

- ◆ 証拠金規制(レバレッジ50倍)の施行に伴う商品性変更

システム関連の取組み

- ◆ リッチクライアント取引ツール「HYPER SPEED NEXT」第一弾のリリースと第二弾以降の準備
- ◆ ハードウェアのリプレイスによる更なるシステム負荷軽減

顧客向けサービス関連の取組み

- ◆ 株式売買機能を完備した「証券」サービスの開始
- ◆ 初心者向けトレードレポートの提供開始(一部ユーザーのみのベータ版)
- ◆ Webサイトリニューアルによる利便性向上
- ◆ 外貨紙幣受け渡しサービスの準備

顧客基盤拡大に向けての取組み

- ◆ 商品性の継続的なブラッシュアップ(約定力とスプレッドの両立)
- ◆ 口座開設キャンペーン&グルメキャンペーン&取引高キャッシュバックキャンペーンの並行展開による取引拡大

BtoBビジネスに関する取組み

- ◆ 韓国最大手オンライン証券「Kiwoom証券」との業務提携準備



Money Partners Group

システム関連の取組み

◆「HYPER SPEED NEXT」第一弾のリリースと第二弾以降の準備

第1弾

version β リリース

ストラテジ(取引戦略)機能搭載
9月限定公開・11月一般公開

第2弾

正式版リリース

発注機能追加搭載
12月公開予定

第3弾

VersionUP版リリース

システムトレード機能追加搭載
来春公開予定



- ・23種類のテクニカル指標を用いた売買ルール作成可能(11月現在)
- ・複数ルールを組み合わせた独自の取引戦略(ストラテジ)構築機能搭載
- ・構築したストラテジをバックテストで検証できる機能も付加

売買シグナルからの
スピード発注機能

HyperSpeedの
遺伝子を引き継いだ
**操作性抜群の
発注機能**

売買タイミングを
逃さない
**すばやい
発注操作**

ストリーミング注文では
**スリッページなし
約定拒否なし!**

システムトレード
機能

カスタマイズしたストラテジで
自動売買

プログラム言語による
条件式の作成

ストラテジの
パラメータ自動最適化

ファンドマネージャーなど
プロのストラテジを
外部取り込み

今後も随時新取引ツールの展開・機能追加を行い、顧客満足の上昇を図る



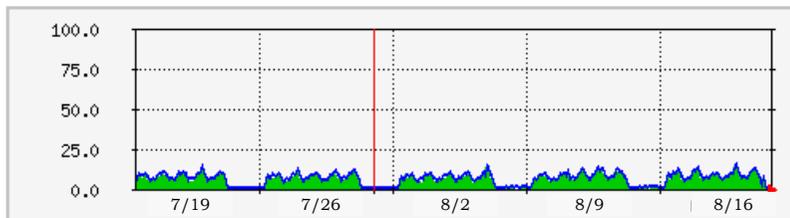
システム関連の取組み

◆ ハードウェアのリプレイスによる更なるシステム負荷軽減

- ✓2010/3から順次実施し、第2四半期において取引システムのハードウェアをリプレイス
- ✓2010/3末比、約7倍の取引量に対応させるキャパシティプランニングを実現
- ✓アプリケーションやDBのチューニングを常時実施し、ハードウェアへの依存を軽減

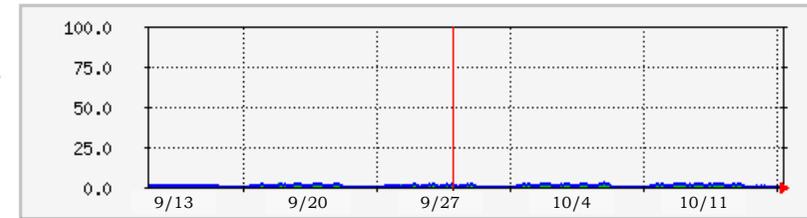
【当社取引システムCPU使用率の推移】

リプレイス前 月次グラフ(7月~8月)
`Monthly' Graph (2 Hour Average)



	Max	Average	Current
CPU Usage Average 1min	14.0 %	5.0 %	0.0 %
CPU Usage Average 5min	15.0 %	6.0 %	1.0 %

リプレイス後 月次グラフ(7月~8月)
`Monthly' Graph (2 Hour Average)



	Max	Average	Current
CPU Usage Average 1min	3.0 %	1.0 %	1.0 %
CPU Usage Average 5min	2.0 %	1.0 %	1.0 %

<今後の予定>

- データベース等においてもリプレイス予定
- サーバ負荷軽減により、取引量の増加を吸収

システム負荷の最大値・平均値の低減を実現し、
業界トップの“約定力”を支える「とめない、とまらない」取引環境を提供



顧客向けサービス関連の取組み

Money Partners Group

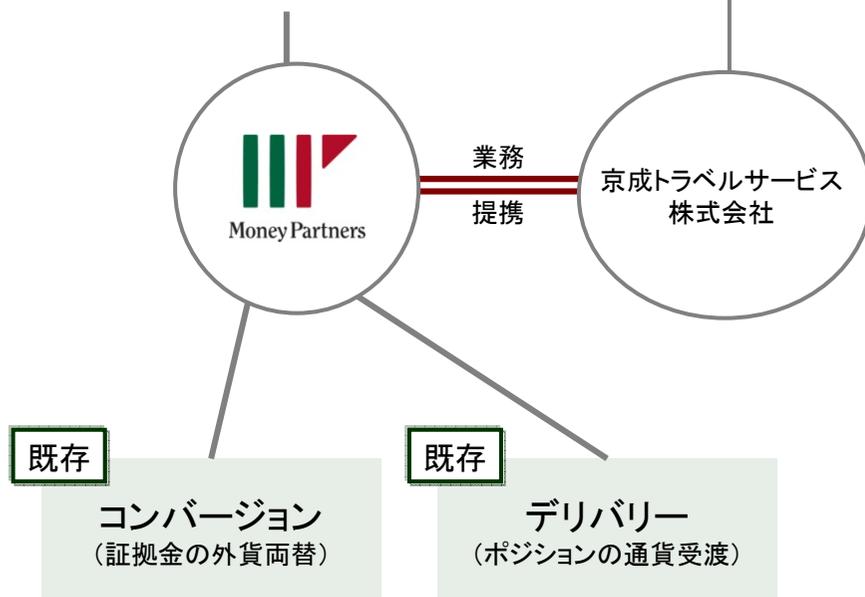
◆ 外貨紙幣受け渡しサービスの準備

11/1発表

New

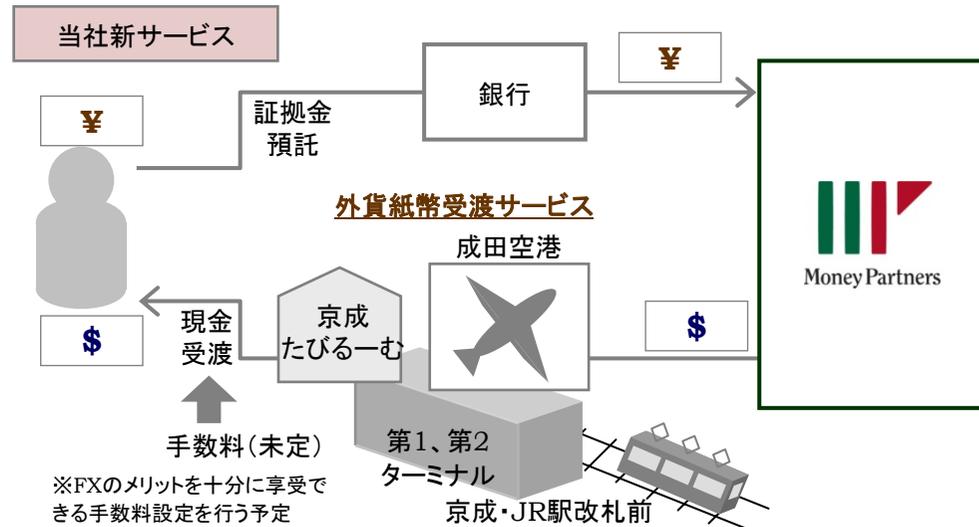
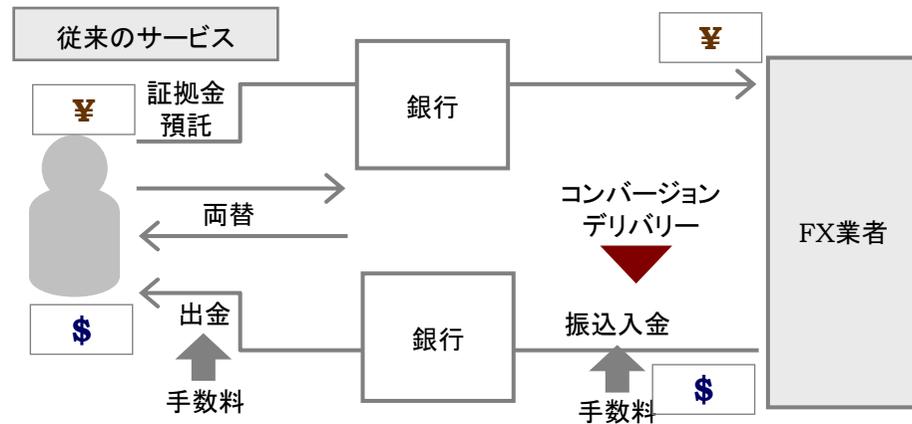
外貨紙幣受渡サービス
(外貨証拠金の現金出金)

2011年3月までに開始予定



△: お客様の外貨預金口座への振込入金のみ可能

<外貨紙幣受渡サービス概要>



FX取引において同種サービスは存在せず、顧客基盤の拡大に寄与が可能

Ⅲ. 今後の戦略及び重点課題





重点課題の進捗状況

2011/3期第2四半期の課題進捗状況

取引高当たりの 収益性向上

- カバーアルゴリズムチューニングを継続
- 大ロット超短期取引(ハイフリークエンシー取引)への対応

BtoCサービス強化と 顧客取り込み

- 株式買付機能の実装による「証券」サービスの開始
- 約定力維持と商品性向上の両立
- 3種のキャンペーン+トレードレポート等による継続取引優良顧客の育成

実需層の開拓と 新商品の取扱開始

- 外貨紙幣受け渡しサービス取り扱いのための業務提携
- インデックス・CFD等、新デリバティブ商品の準備



Money Partners Group

(参考) BtoCサービス強化と顧客取り込み

■ カタログスペックにはあらわれない顧客の“実質コスト”を考慮した商品設計

ストリーミング注文時において、顧客に提示したレートで必ず約定する「ディーラブルプライス」提示の徹底



(※1) 注文を出した値段で約定せずに顧客に不利な方向にずれて約定してしまうこと、またはそのズレのこと。
(※2) 注文を出した値段で約定ができず注文がキャンセル(拒否)されてしまうこと。

順位	企業名	公表スプレッド(pips)(※1)	発注回数	スリッページ設定2pips許容			スリッページ発生率 ([A]+[B])/200(※2)
				[A]スリッページ発生回数	[B]約定拒否回数	[A]+[B]	
1	当社	1.2	200	0	0	0	0.0%
1	A社	1	200	0	0	0	0.0%
1	B社	1	200	0	0	0	0.0%
4	C社	2~	200	3	0	3	1.5%
5	D社	0~1	200	4	0	4	2.0%
6	E社	0.9	200	4	4	8	4.0%
7	F社	1	200	26	2	28	14.0%
8	G社	1	200	39	1	40	20.0%
9	H社	0.8	200	62	0	62	31.0%
10	I社	2	200	70	2	72	36.0%
11	J社	0.9	200	71	2	73	36.5%
12	K社	0.8	200	91	0	91	45.5%
13	L社	0~0.8	200	96	26	122	61.0%
14	M社	0.5~0.8	200	97	4	101	50.5%
15	N社	0.5~0.7	200	108	45	153	76.5%

株式会社 矢野経済研究所調べ(2010年8月23日(月)~27日(金))

※1 公表スプレッドはドル/円の通常時の数値、キャンペーン時の数値も含む
※2 スリッページ許容2pips設定時に発生した約定拒否は、2pips以上のスリッページ発生ととらえ、算出

順位	企業名	公表スプレッド(pips)(※1)	発注回数	スリッページ設定0pips許容(許容無)			約定率 1-(([A]+[B])/200)
				[A]スリッページ発生回数	[B]約定拒否回数	[A]+[B]	
1	当社	1.2	200	—	0	0	100.0%
1	O社	1	200	—	0	0	100.0%
1	P社	0~1	200	—	0	0	100.0%
4	Q社	0.9	200	—	2	2	99.0%
5	R社	2~	200	—	6	6	97.0%
6	S社	1	200	—	7	7	96.5%
7	T社	1	200	—	37	37	81.5%
8	U社	1	200	—	42	42	79.0%
9	V社	2	200	—	44	44	78.0%
10	W社	0.5~0.9	200	—	44	44	78.0%
11	X社	0.8	200	—	64	64	68.0%
12	Y社	0.8	200	—	68	68	65.5%
13	Z社	0.9	200	—	70	70	65.0%
14	AA社	0~0.8	200	—	72	72	64.0%
15	AB社	0.5~0.7	200	—	100	100	50.0%

株式会社 矢野経済研究所調べ(2010年8月30日(月)~9月3日(金))

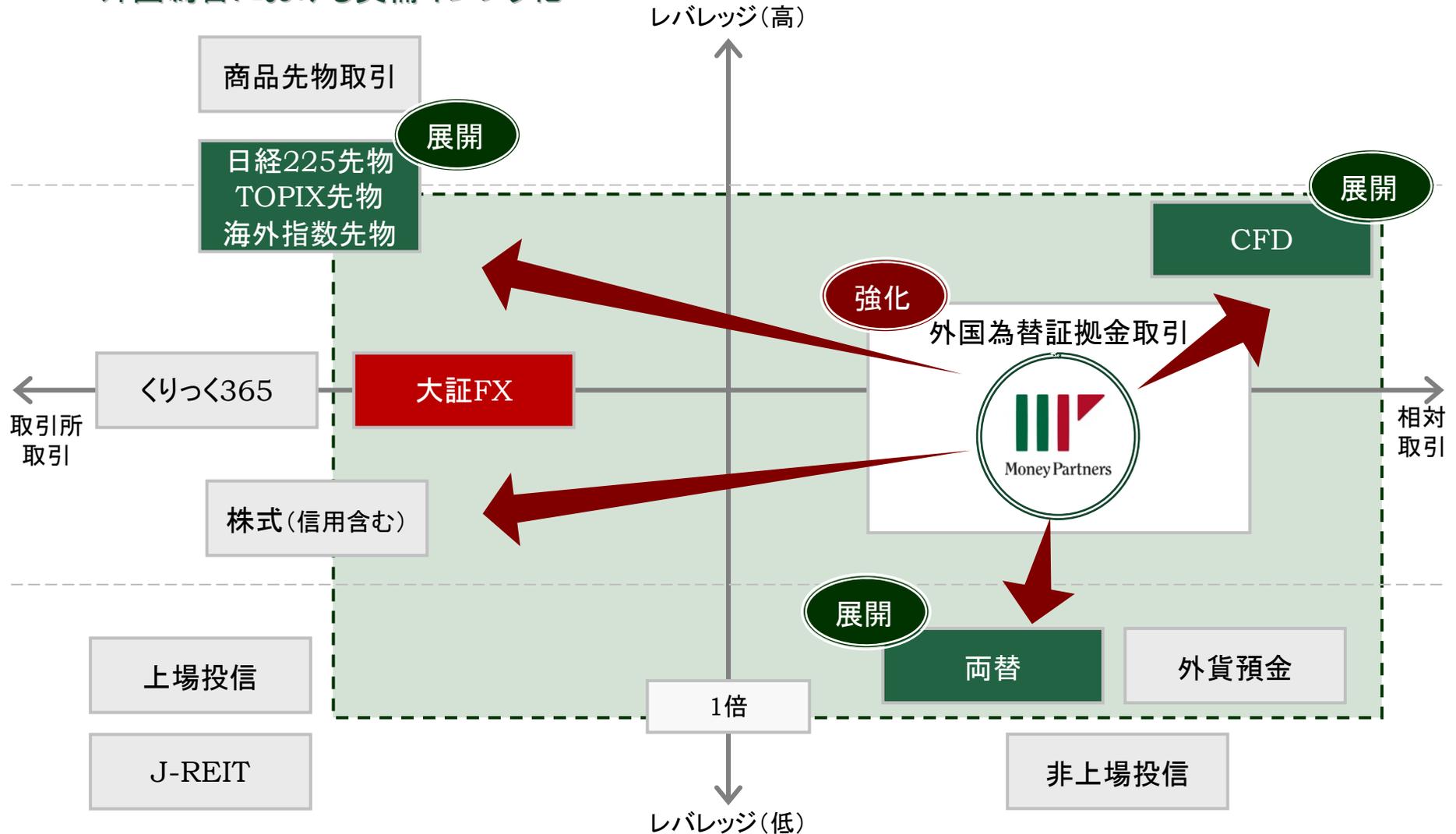
※1 公表スプレッドはドル/円の通常時の数値、キャンペーン時の数値も含む



Money Partners Group

中長期的な経営戦略 ～目指すべきポジション

- FXを基軸とした相対取引サービスの拡大による収益源創出
- 外国為替における実需インフラ化





中長期的な経営戦略 ～BtoC事業基盤の更なる強化

■ 当社利益の主軸となるBtoCのFXビジネスをより一層強化

戦略1

商品性の更なる向上

～約定力とスプレッドの両立～

- 約定率100%の堅持
- 競争力のあるスプレッド提示
- 顧客の実質取引コストの低減



戦略2

優良顧客の獲得・育成

～顧客への還元フィードバック～

- 取引高キャッシュバックキャンペーンによる顧客への還元
- トレードレポート強化による顧客のFXリテラシー向上



戦略3

利便性と付加価値の追求

～取引ツール・情報ツールの強化～

- リッチクライアント取引ツールの継続的バージョンアップ
- 代用有価証券サービスの利便性向上

顧客数 UP

&

取引高 UP

&

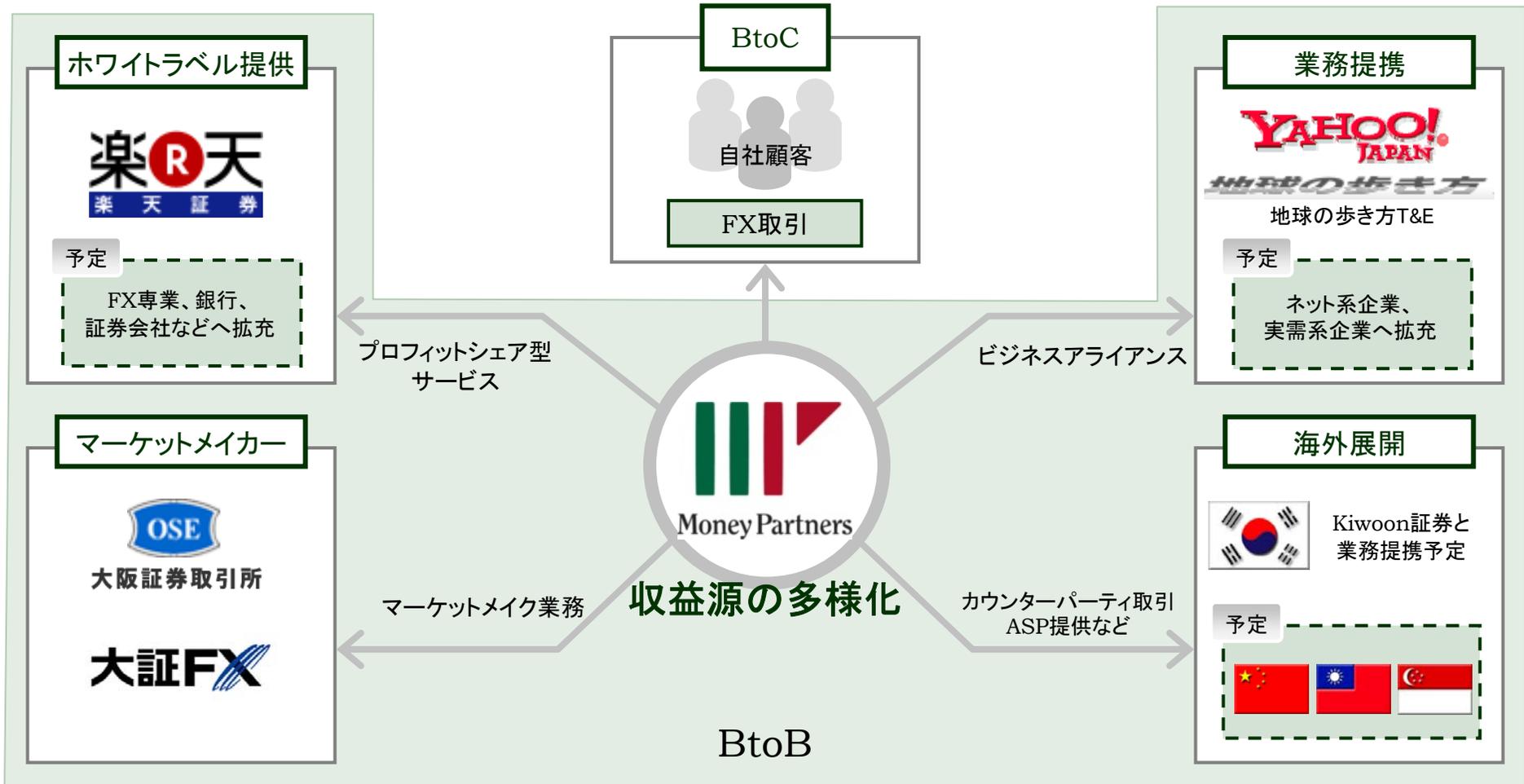
収益性 UP



Money Partners Group

中長期的な経営戦略 ～BtoB展開の推進

- 既存アライアンス先との関係強化を図るとともに、収益源の多様化を目指してBtoB展開を推進



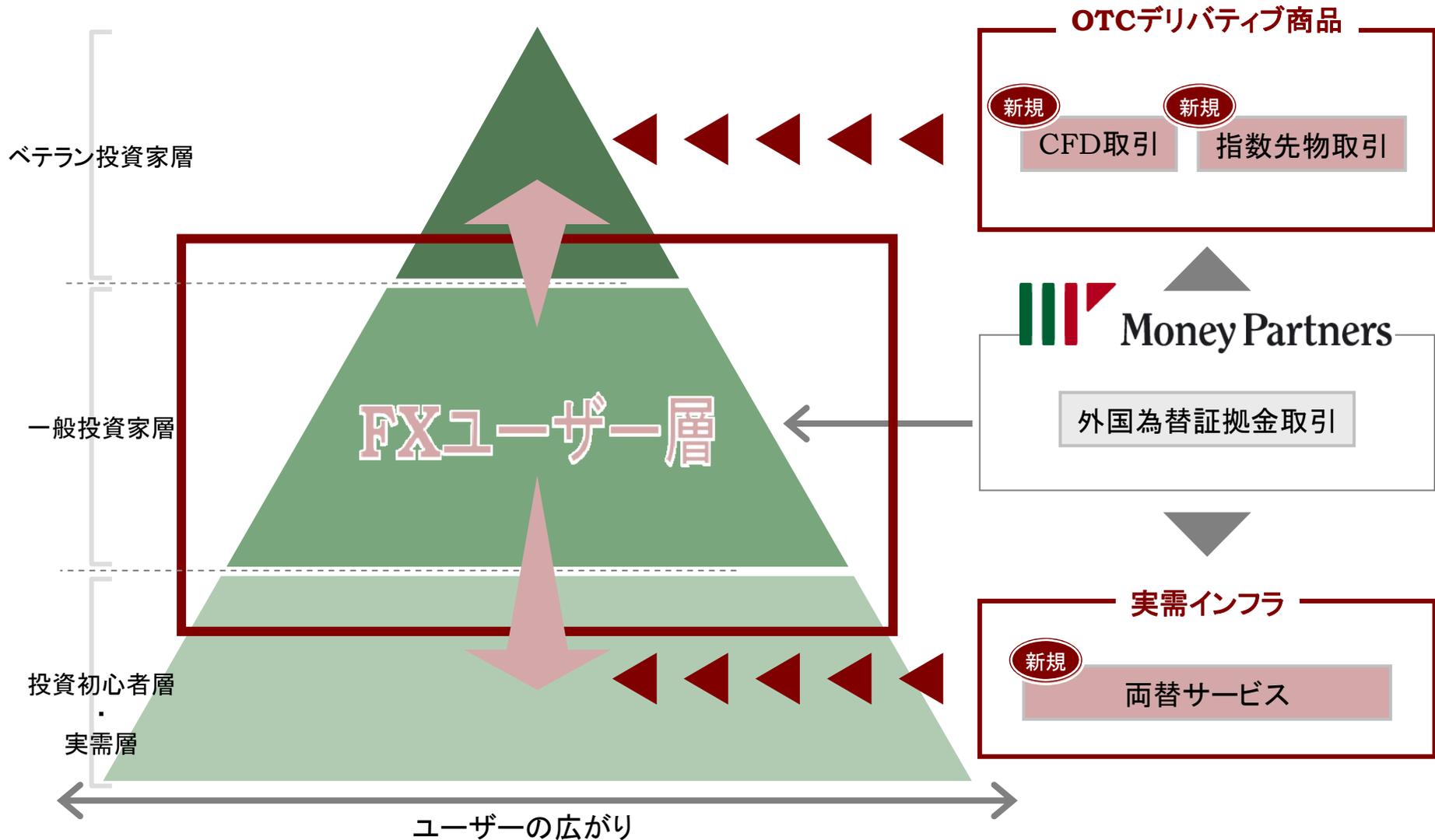
取引高 **UP** & 限界利益率 **UP**



Money Partners Group

中長期的な経営戦略 ～新規事業の開発

- FXを基軸とした相対取引サービスの追加と実需インフラサービスへの展開



IV. 当社の経営目標及び株主還元について



高水準のROE及び営業収益経常利益率の維持

- 当社は、企業価値の最大化のため自己資本を効率的に活用することを重視しております。
- このために効率的な収益構造の実現を目指してまいります。
- 効率性を計る尺度として、自己資本利益率(ROE)及び営業収益経常利益率を重要な経営指標として位置づけております。

▶ 2011年3月期第2四半期(2010年7~9月)のROEは2.5%

- ・営業収益の拡大及び更なる経営の効率化により、高水準のROEの達成を目指す

※:2011年3月期第2四半期ROEにつきましては、下記計算式により算出しております。

$$ROE = (2011年3月期第2四半期当期純利益 \times 4) \div ((2011年3月期第2四半期期首自己資本 + 第2四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$$

▶ 2011年3月期第2四半期(2010年7~9月)の営業収益経常利益率は5.1%

- ・主要ネット証券各社と同水準の営業収益経常利益率の維持・向上を目指す

業績向上に取り組み、株主利益の向上に努める

利益還元方針

配当性向：連結当期純利益の30%を目処

配当機会：中間及び期末（年2回）

当社株式を長期保有していただいている株主の皆様に対し、配当性向の引き上げによる利益還元の強化と、年2回の配当実施による利益還元機会の充実を図り、株主利益の最大化を目指してまいります。

	2010年3月期				2011年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
当期純利益 (百万円)	403	334	213	195	394	59		
配当金の総額 (百万円)	220		139		139			
期末発行済 株式総数(株)	321,480 (内、自己株式10,623)				321,480 (内、自己株式10,623)			
1株当たり 配当金	700円		450円		450円			

2011年3月期第2四半期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ

参考資料



当社の概要と沿革について
当社の事業内容、収益構造、通貨ペアと売買高比率について



Money Partners Group

グループ概要(平成22年3月31日現在)

- 商号 株式会社マネーパートナーズグループ
- 本社 〒106-6016 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー16F
- 代表取締役社長 奥山 泰全
- 設立日 2005年6月10日
- 資本金 17億8,622万円

- 主な事業内容 持株会社

- 関連会社 株式会社マネーパートナーズ

加入協会：日本証券業協会、社団法人金融先物取引業協会

登録番号：関東財務局長（金商）第2028号

事業内容：1. 金融商品取引法に基づく外国為替証拠金取引、有価証券関連業務及びこれに付随する一切の業務

2. 外国通貨の売買、売買の媒介、取次ぎもしくは代理、その他これに付随する業務

3. 金融商品取引業及びこれに付随する業務



- 株式会社マネーパートナーズソリューションズ

事業内容：1. 外国為替証拠金取引をはじめとする金融商品取引に関するコンピュータシステムの設計、開発、販売、賃貸および保守

2. 外国為替証拠金取引をはじめとする金融商品取引に関するマーケティング、企画、調査、研究およびコンサルティング

社是

DON'T STOP!

とめない、とまらない。

企業理念

投資家の保護育成と顧客第一主義に努め、
外国為替証拠金取引市場の健全な発展に寄与する。

カスタマー
ファースト

イノベーション

バリューアップ

コンプライアンス



年月		事項
平成17年6月	新設分割	□ 一般投資家向けにインターネット等を通じた外国為替証拠金取引サービスを提供することを目的として、株式会社マネーパートナーズを東京都港区西麻布(資本金100,000千円)に設立し、外国為替取引事業を開始
平成18年8月	8通貨→10通貨	□ 南アフリカランド/円、英ポンド/米ドルを加え取引通貨を10通貨ペアに
平成18年9月	システム子会社設立	□ システム開発力の強化を目的として、株式会社マネーパートナーズソリューションズを100%出資子会社として設立
平成19年1月	ロゴ・HP一新	□ CI政策を実施しコーポレートマーク、コーポレートカラー、ホームページを一新 □ 証拠金定額制の導入
平成19年6月	プライバシーマーク取得	□ 「プライバシーマーク」認定取得
平成19年6月	上場	□ 大阪証券取引所ヘラクレスに上場(証券コード:8732)
平成19年9月	第一種金融商品取引業登録	□ 金融商品取引法施行に伴い第一金融商品取引業者として登録
平成20年3月	金融商品取引業の変更登録完了	□ 有価証券の取扱い業務開始
平成20年4月	格付取得	□ 株式会社日本格付研究所(JCR)より新規に格付を取得(短期優先債務:J-3)
平成20年6月	提示レート・小数点以下3ケタ対応開始	□ 全ての対円通貨ペアの提示レート・小数点以下3ケタ対応開始
平成20年10月	持株会社化	□ 株式会社マネーパートナーズグループに商号変更 □ 吸収分割により、全事業をマネーパートナーズ分割準備株式会社(10月1日付で株式会社マネーパートナーズに商号変更)に承継し持株会社体制へ移行
平成21年6月	10万口座達成・DSソフト発売	□ 顧客口座数10万口座達成 □ ニンテンドーDSソフト FXシミュレーションゲーム『マネパ1000万人のFXトレーニング』を発売
平成21年7月	テレビCM開始・大証FX参加	□ ブランド認知度向上を目的として、マネーパートナーズとして初のテレビCMを展開 □ 「大証FX」へマーケットメイカーとして参加
平成22年1月	金銭信託の信託保全義務化に対応	□ 信託保全先を三井住友銀行並びにみずほ信託銀行へと変更
平成22年5月	取引通貨を13通貨ペアに拡大	□ 取引通貨に「香港ドル/円」「シンガポールドル/円」「豪ドル/米ドル」を追加し取引通貨を13通貨ペアに
平成22年7月	有価証券売買機能完備	□ 有価証券買付けの取扱い開始

【外国為替証拠金取引に関わる法改正や規制強化と、業界およびマーケットの動き】

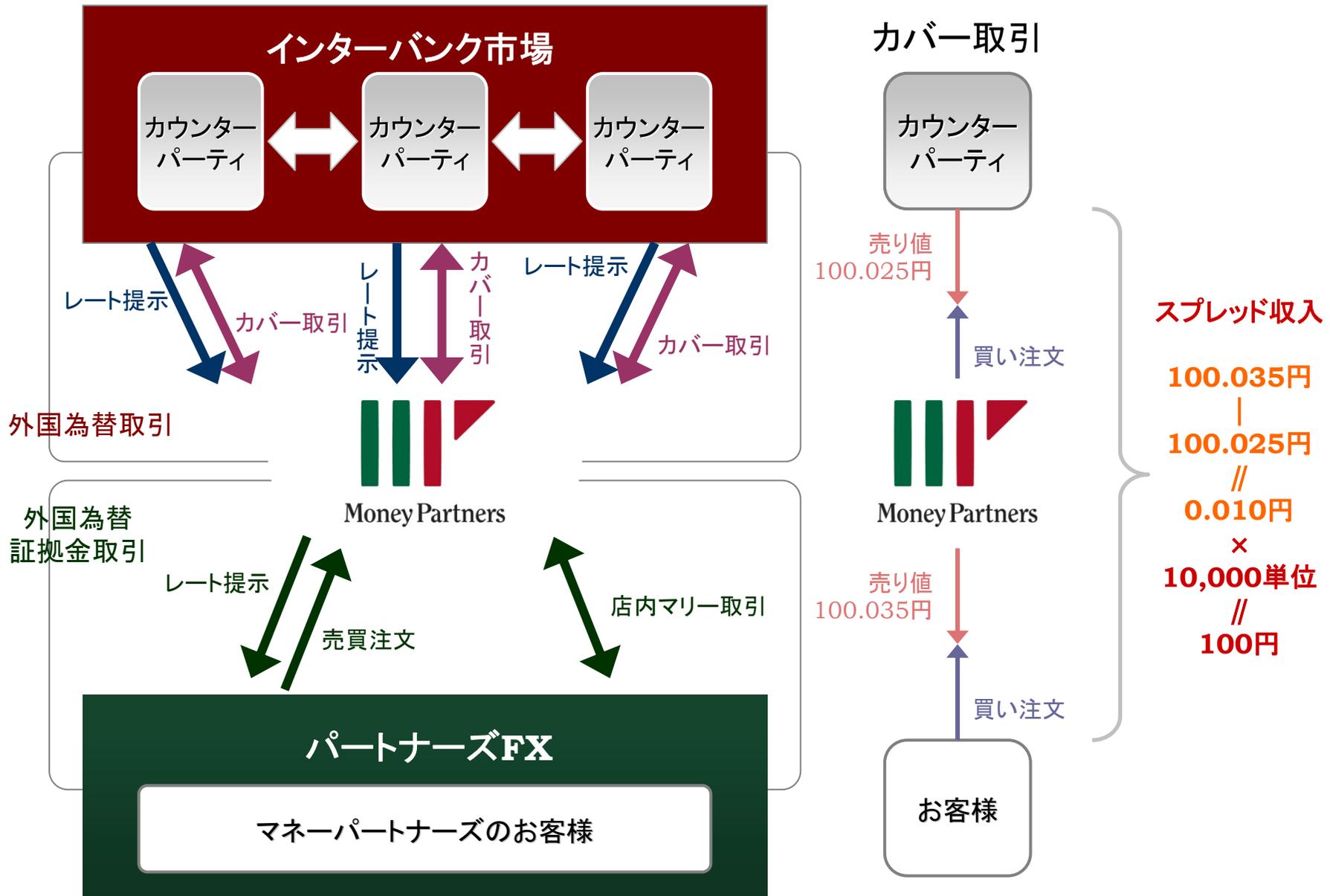
1998年外為法改正	▶	為替取引の完全自由化 マーケットオリエンテッドな取引商品として個人投資家の取引が活発化
2005年改正金先法施行	▶	乱立していたFX業者が一気に淘汰（600社→100社強へ）
2007年9月金商法施行	▶	FX業者が証券会社と同種扱いの金融庁管轄になり、透明性や内部管理体制の更なる厳格化が進展
2009年8月改正内閣府令施行	▶	預り証拠金の区分管理方法を金銭信託に一本化 FX取引に係るロスカットルール整備・遵守の義務化
2010年8月改正内閣府令施行	▶	証拠金規制が導入され、高レバレッジに対する規制が強化

激化する競争環境の中、成否二極化の様相！！
マネーパートナーズはFX専業・ネット専業大手企業としてのポジションを獲得



Money Partners Group

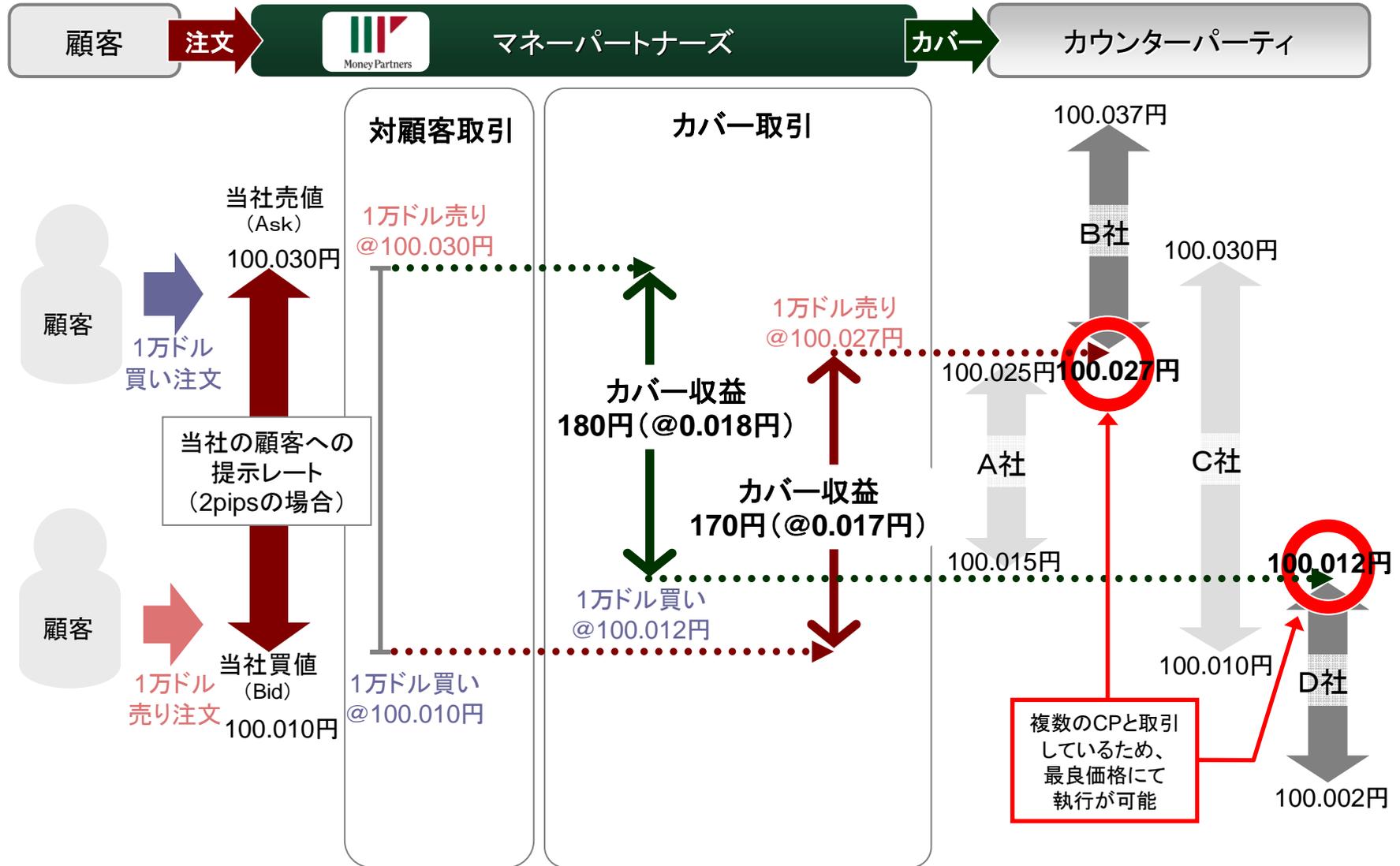
マネーパートナーズの収益構造





Money Partners Group

マネーパートナーズの収益構造





Money Partners Group

マネーパートナーズの取扱い通貨ペアと売買高比率

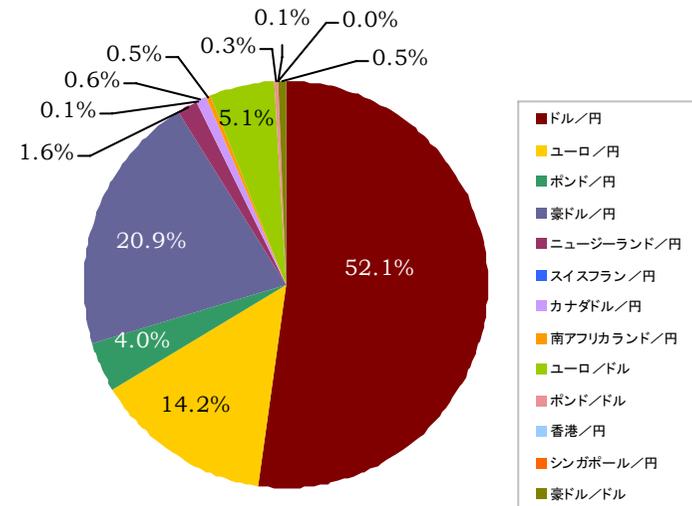
米ドルやユーロといった主要通貨をはじめ、高金利通貨として人気を集めるオーストラリアドル・ニュージーランドドルなどを取扱っています。

各通貨ペアとも、インターバンク市場での取引単位の約100分の1となる10,000単位での取引が可能。さらに投資家のニーズに応える形で『FXnano』を開始し、一部通貨ペアに関しては、約10,000分の1となる100単位での取引を実現。

当社取扱い通貨ペア

		USDJPY 米ドル円			AUDJPY 豪ドル円
		EURJPY ユーロ円			NZDJPY NZドル円
		GBPJPY 英ポンド円			ZARJPY 南アランド円
		CADJPY カナダドル円			CHFJPY スイスフラン円
		EURUSD ユーロ米ドル			GBPUSD 英ポンド米ドル
		HKDJPY 香港ドル円			SGDJPY シンガポールドル円
		AUDUSD 豪ドル米ドル			

下記グラフは当社の2010年7月-9月度の取扱い通貨ペア別の売買高比率をあらわしたものです。



今後もお客様のニーズに合わせて取扱い通貨を増やしていく予定です。

取扱い商品に係るリスクおよび手数料等について

パートナーズFX、およびパートナーズFXnanoは、取引通貨の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。

また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。取引手数料はインターネット取引の場合、新規・決済共に無料です。電話取引(パートナーズFXのみ)の場合、10万通貨単位未満の取引では1通貨単位あたり片道20銭、10万通貨単位以上の取引では1通貨単位あたり片道10銭です。

取引に必要な証拠金は、取引の額の2%以上の額で、証拠金の約50倍までの取引が可能です。法人コース(パートナーズFXのみ)の場合、1万通貨単位あたり5千円から2万円で、通貨ペアごとに異なり、証拠金の約100倍までの取引が可能です。各通貨の売付価格と買付価格とは差額(スプレッド)があります。

国内上場有価証券の売買等に当たっては、最大で約定代金の2.5%の手数料(消費税別)、最低手数料は取引形態等により異なり最大で2,625円(消費税込み)をいただきます。国内上場有価証券等は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等及び有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)があります。

取引開始にあたっては契約締結前書面を熟読、ご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願い致します。

〈商号〉株式会社マネーパートナーズ(金融商品取引業者)
〈登録番号〉関東財務局長(金商)第2028号
〈加入協会〉日本証券業協会 社団法人金融先物取引業協会

2011年3月期第2四半期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ